

## 平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 大阪狭山市

実践研究校名 南第一小学校

【公開授業】公開日：平成25年12月5日

対象学年：第5学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 Lesson 9 What would you like?	(本時の指導の目標) ・自分の食べたいメニューを注文したり、友だちの注文を聞き取ったりできる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ・丁寧な言い方でほしいものをたずねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ “What would you like?” という丁寧な表現を知り、その表現に慣れるために、実生活に近い場面設定において、外国語のやりとりをできるように工夫した。
- ・ 児童の興味・関心を高めるため、レストランのメニューを実物に近いものを色紙で作り、用意した。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・ “I'd like ...” の表現を十分に活用できていない児童もいたが、自分の食べたいものを相手に伝えたり、聞き取ったりすることができた。
- ・ 「すべての指示や発問を英語を使って行わなければ」と担任が認識していたため、ゲームのルールを十分理解させることができず、ゲームの時に戸惑っている児童が見られた。

## 【研究協議会】

(テーマ) 指導方法の工夫	(指導・助言者) 大阪府教育委員会 市町村教育室 小中学校課 教務グループ 指導主事 信田 清志 大阪狭山市教育委員会 主幹 尾島 肇
------------------	--

(研究協議会で出された意見)

- ・ いきなりグループ活動でやりとりを行うのではなく、ペアワーク等で表現に慣れ親しませてから行ったほうがよい。
- ・ ルールが漠然としていたので、説明のときは日本語で細かく指導し、見通しを持たせてあげるほうがよい。
- ・ 単語の復習で扱う単語量が多すぎたので、少なくしたほうがよい。

(まとめ)

1. アクティビティまでは子どもが見通しをもって取り組めていたので、ゲームのときも日本語を使い、子どもたちが見通しをもって取り組めるようにした方がよい。
2. レストランのメニューなど、実物に近いものを用意することで、子供たちの興味・関心を高めることができた。